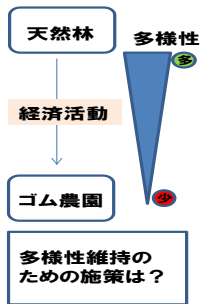


## 背景



ゴム農園に残された唯一の熱帯高木  
Koompacia excelsa H:7.3m

## 目的

ゴム農園の植物種の生物多様性を明らかにし、その多様性を増やすための施策を提案する。

ゴム農園の中で多様性の多い場所として居住緑地をターゲットとし、以下の調査研究を行った。

- ☑ 衛星写真を用いた居住緑地の判別
- ☑ 異なるゴム農園の居住緑地の植物種比較
- ☑ 居住地における植物種の構成要素の解析

## 調査地と方法

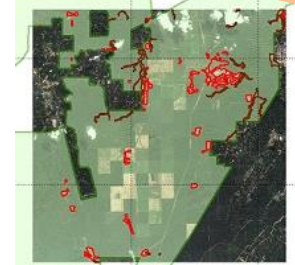
- ☑ インドネシアの北スマトラ州に位置するBridgestone Sumatora Rubber Estate (BSRE)を対象とし、衛星画像を用いて居住緑地の位置図作成と面積測定を実施した。
- ☑ インドネシアの西ジャワ州(Purwakarta)とスマトラ島のBSREの居住緑地の植物調査を実施し、それらを比較した。
- ☑ BSREを対象として、17カ所の居住緑地の植物調査を実施し、それらの類似度を比較した。



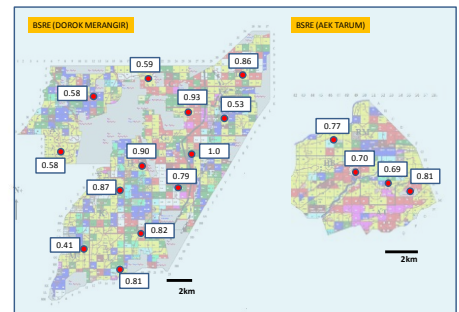
植物調査の状況

## 結果と考察

1. 居住緑地の植物種や植栽目的は地域で異なる傾向にあった。植物種は西ジャワよりも、BSREで多くみられた。植栽目的は、どちらも観賞用が最も多く、続いて西ジャワでは野菜や果物などの実用、BSREでは薬用であった。
2. ゴム農園(BSRE)の居住緑地は全域に均等に分布しており、その面積はゴム農園の約1%であった。ゴムノキ以外が植栽できる場所としてはかなりの面積になることが明らかになった。
3. BSREの17カ所の居住緑地で出現した種数は310種であった。そのうち61種が木本植物であった。
4. これらの植物の植栽目的は、観賞、薬、果実、野菜、木材の順であった。植栽種として在来種を選択するという意識は低かった。
5. 全調査地で出現した植物は23種であった。これらの中には果実を生産する木本植物が多く含まれていた。
6. 全地区の類似度は0.66であり、半分以上の種に類似性が認められた。類似性は近距離の居住緑地ほど高く、離れた緑地間で低くなる傾向が見られたが、近辺の町の影響を受けるなど複雑な要因が存在しているようであった。



BSREの居住緑地の分布状況



BSREにおける居住緑地間の類似度の一例

## 今後の展開

1. 高頻度出現種の個体数増加による遺伝的多様性の向上。
2. 低頻度出現種の増加による種多様性の向上。
3. 道路、河川を利用したコリドー造成による居住緑地の有機的結合を図る。
4. 在来種植栽に関しては、環境教育を含めた啓発活動を行う。